

授業コード	JP13020010	開講年度・学期	2021年度後期
科目授業名	刑法 I B (刑法総論)		
英語科目授業名	Criminal Law 1B		
科目ナンバー	JAEPE7702	必修・選択	必修
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名 (代表含む)	金澤 真理		
科目の主題	本講義では、刑法 I A を受講した者を対象として、刑法典第一編総則のうち処罰拡張事由たる未遂および共犯を中心に、応用的発展的内容を含めて講述する。		
授業の到達目標	刑法 I A 同様、用いられる概念、内容につき正確な知識を習得すると共に、体系的な論理的思考力を身につけることを目標とする。		
授業内容・授業計画 ①	<p>以下の計画、学習目標に従って、講義を進める。</p> <p>(1) 既遂犯処罰の原則と未遂、予備 犯罪の発展段階について理解し、未遂、予備の概念、それぞれの区別の基準について学ぶ。</p> <p>(2) 不能犯 不能犯の意義、可罰的な未遂犯との区別の基準について学習する。</p> <p>(3) 中止犯・中止未遂 中止犯・中止未遂の法的性格と要件について、現在までの議論状況を踏まえて理解する。</p> <p>(4) 正犯と共犯との区別、共犯の処罰根拠 正犯、共犯の概念的区別に関する知識を習得し、処罰拡張事由たる共犯の処罰根拠を考究する。</p> <p>(5) 共同正犯 共同正犯の種類、要件について理解する。</p> <p>(6) 教唆犯 狭義の共犯たる教唆犯について学ぶ。</p> <p>(7) 幫助犯 幫助犯の概念、特に行為の定型性がない幫助犯の成否の基準について学ぶ。</p> <p>(8) 共犯論の諸問題 共犯が関与する場合に特殊な問題を生じる身分犯の共犯について考察する。</p> <p>(9) 共犯論の諸問題 過失犯にも共犯規定の適用があるか、判例理論の蓄積を通じて考究する。</p> <p>(10) 共犯論の諸問題 共犯相互間に錯誤がある場合について学習する。</p> <p>(11) 共犯論の諸問題 共犯関係からの離脱、共犯関係の解消が認められる場合に関し、判例の事案を踏まえて考察する。</p> <p>(12) 共犯論の諸問題 関与者に正当化事由がある場合の擬律について学習する。</p> <p>(13) まとめ</p> <p>(14) 罪数論 罪数の一般理論を事例に則して学ぶ。</p> <p>(15) 期末試験</p>		
事前・事後学習 の内容	<p>事前学習：授業計画に合わせて、体系書の該当部分を読み、概要を理解する。関連する判例の事案、判旨を読み、講義のテーマとの関係を整理する。</p> <p>事後学習：講義で扱った部分の内容を整理して理解困難な部分を復習するほか、余力があるものは、事例演習に臨む。</p>		
評価方法	<p>絶対評価 試験成績（中間レポートを含む。内訳：中間レポート（12月中旬頃に提出を求める予定）20%、期末試験80%）を80%、平常点（講義における質疑応答、確認課題へのとりくみ）を20%として評価する。</p>		
受講生へのコメント	刑法 I A で学んだことの復習、および毎回の講義の予復習を欠かさないこと。		

教材	以下に示すものを含めて、いずれかの体系書を入手し、学習に用いること。最近の議論をフォローした手に取りやすい体系書として、山口厚『刑法総論（第3版）』（有斐閣）、松原芳博『刑法総論（第2版）』（日本評論社）、橋本正博『刑法総論（法学叢書）』（新世社）等がある。また、判例集（講義で参照する機会が多いのは、別冊ジュリスト『刑法判例百選 I 総論』（第8版）（有斐閣））を座右に置き、参照しつつ学習を進められたい。
----	--